



中村キース・ヘリング美術館

プレスリリース：2024年03月27日

キース・ヘリングの反戦・反核活動をたどり、平和と自由へのメッセージを紐解く展覧会「Keith Haring: Into 2025 誰がそれをのぞむのか」開催

中村キース・ヘリング美術館（山梨県・小淵沢）は、来年戦後80年を迎える今、キース・ヘリングの反戦・反核を訴える取り組みを辿り、作品に込められた「平和」と「自由」へのメッセージを、改めて現代の視点から紐解く展覧会「Keith Haring: Into 2025 誰がそれをのぞむのか」（期間：2024年6月1日〔土〕から2025年5月18日〔日〕）を開催します。

KEITH HARING: INTO 2025

Keith Haring: Into 2025
誰がそれをのぞむのか

June 1, 2024
— May 18, 2025

誰が
それをのぞむのか



2024年6月1日[土]
— 2025年5月18日[日]

中村キース・ヘリング美術館
Nakamura Keith Haring Collection

〒408-0044
山梨県北杜市小淵沢町10249-7
10249-7 Kobuchisawa, Hokujo,
Yamanashi 4080044, JAPAN



1980年代のアメリカ美術を代表するアーティスト、キース・ヘリング（1958-1990）は、明るく軽快な作風で知られる一方、彼の作品の根底には社会を鋭く洞察する眼差しがありました。ヘリングは、時に

ユーモラスに、時に辛辣に社会を描写し、平和や自由へのメッセージを送り続けました。

本展の副題は、ヘリングが広島平和記念資料館を訪れた際に日記に残した「誰が再び望むのだろうか？どこの誰に？（原文：Who could ever want this to happen again? To anyone?）」という言葉に着想を得ています。一瞬で街を焼け野原にした原子爆弾。今なお世界には1万2000にのぼる核弾頭が存在し、絶え間なく戦争が続くなか、来年には第二次世界大戦の終結から80年の節目を迎えようとしています。本展は、ヘリングの眼差しを通して世界が抱える課題に向き合い、現代における「平和」や「自由」の意味について考えることを目的としています。

展覧会3つの見どころ

1. 反戦・反核を訴える作品群

1980年代、激化する冷戦を背景に、世界はかつてない数の核を保有していました。ヘリングは、アートを媒体に多様な手法で社会に向けて反戦・反核のメッセージを投げかけました。ニューヨークで行われた史上最大規模といわれる反核デモのために制作し、セントラルパークで無料配布を行った「核放棄のためのポスター」（1982年）、チェックポイント・チャーリー博物館の依頼を受けベルリンの壁に描いた壁画（1986年）のドキュメント写真、ウィリアム・S・バロウズ（1914-1997）の10篇の詩に併せてヘリングが混沌とした世界を描き出した版画シリーズ《アポカリプス》（1988年）といった作品群からは、核の脅威にさらされる一人の若者の恐怖が垣間見ると同時に、不安や絶望に抗い未来への警告を試みたアーティストの姿が伺えます。



核放棄のためのポスター、1982年



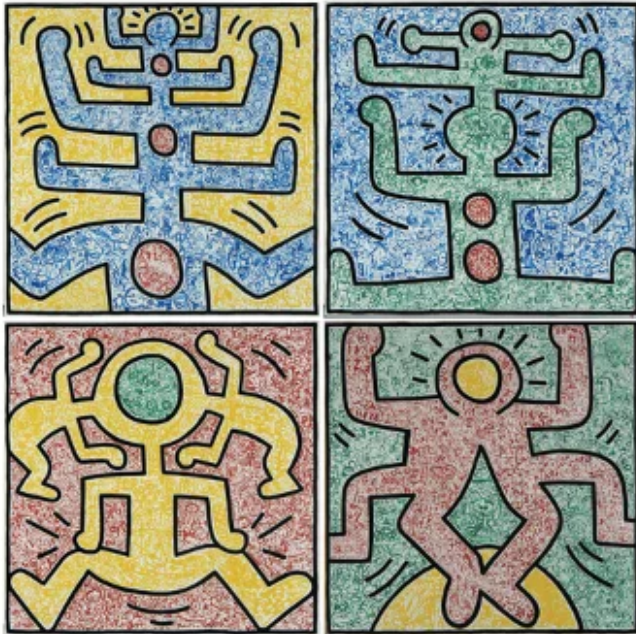
《無題》、1982年



ベルリンの壁での壁画制作のドキュメント写真、1986年
Photo by Tseng Kwong Chi ©Muna Tseng Dance Projects, Inc., New York



《アポカリプス》、1988年



《平和 I-IV》、1987年、多摩市文化振興財団蔵

2. 平和・自由へのメッセージ

ヘリングが生涯一貫して希求した「平和」と「自由」という主題には、アメリカの歴史や80年代当時の世界情勢が色濃く反映されています。本展では、1987年に東京都多摩市の複合文化施設「パルテノン多摩」の開館に際して招聘されたヘリングが、500人の子どもたちと制作した《平和 I-IV》、《マイ・タウン》、《サウンド・ツリー》など、子どもたちのために制作された数々の作品を通して、制作から40年近くの年月が過ぎようとする現在に、これらの作品に込められたメッセージについて考えます。

3. キース・ヘリングと広島

1988年、ヘリングは、広島で行われた原爆養護ホーム建設のためのチャリティコンサート「HIROSHIMA '88」のメインイメージを手がけたことをきっかけに、広島を訪れました。原爆ドームや広島平和記念資料館へ足を運び、戦争の惨さを目の当たりにしたヘリングは、平和への思いを形にすべく壁画制作を申し出ました。しかし、このプロジェクトは実現することがありませんでした。本展では、調査のなされてこなかったヘリングの広島訪問の経緯を辿り、その足跡を紹介します。



キース・ヘリングと原爆ドーム、1988年
©Keith Haring Foundation

開催概要

展覧会名	Keith Haring: Into 2025 誰がそれをのぞむのか
会期	2024年6月1日（土）－ 2025年5月18日（日）

開館時間	9:00－17:00（最終入館16:30）
休館日	定期休館日なし
観覧料	大人:1,500円 / 16歳以上の学生:800円 / 障がい者手帳をお持ちの方:600円 15歳以下:無料 ※各種割引の適用には身分証明書のご提示が必要です。
観覧券購入場所	美術館受付のみで販売
公式サイト	https://www.nakamura-haring.com/
主催	中村キース・ヘリング美術館
後援	米国大使館、山梨県、山梨県教育委員会、北杜市、北杜市教育委員会

当プレスリリースURL

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000053.000022359.html>

中村キース・ヘリング美術館のプレスリリース一覧

https://prtimes.jp/main/html/searchrlp/company_id/22359

【プレスツアーのご案内】

本展開催前日（5月31日[金]）に、プレスツアーを開催します。

新宿駅よりバスで小淵沢までご案内し、本展をメディアの皆様にご紹介いたします。担当キュレーターによる展覧会説明のほか、ニューヨークのキース・ヘリング財団の担当者よりごあいさつを申し上げます。

ぜひ、ご参加賜りますよう、ご検討のほどよろしくお願い申し上げます。

[日程（予定）]

09:00-12:00 新宿駅集合、バス移動（移動中にご昼食）

12:00-13:00 内覧会（本展を担当キュレーターがご案内します。）

13:30-15:00 関連イベントご案内

屋上での懇親会

15:00 内覧会終了（バスで新宿駅までお送りします。）

18:00 新宿駅到着

※詳細なスケジュールは、改めてご案内します。

※ご参加を希望される方は、<https://forms.gle/NQTM1jJTquSq3yX78> より必要事項をご記入いただくか、pr_nkhc@keith.jp までご連絡ください

【本件に関する報道関係お問合せ先】

担 当：田中、木虎、（島田）

連絡先：pr_nkhc@keith.jp